

=私たちの活動 4つの柱=
 *制度化と指導員の身分保障
 *専門性と仕事の確立
 *父母と共に学童保育運動の発展
 *全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

ニュース学童保育

2019. 1 2. 4.

NO. 4 4

全日本建設交運一般労働組合
 全国学童保育部会 発行
 編集：事務局

厚労省交渉、基準の引き上げを求める

政府、指導員の給与が上がるように

11月6日、全国学童保育部会は、厚生労働省交渉を行い、今後の学童保育の充実のために、要綱・基準の改定や指導員の養成課程の創設など、要請してきました。

厚労省は「処遇改善事業で、質を引き上げていく方向に変わりはない。」

現実的に指導員の給与が上がっていくように市町村などに働きかけていく」と、基本姿勢を示しました。

「平日3時間」では、役割果たせない

部会役員は、「そもそも基準、要綱が低すぎることが問題だ。」と指摘しました。

「開所時間は、平日3時間以上の」となっており、



基準が出来て以降も、質の改善は一部にとどまっている実態を告発。

それが、学童保育が安上がりにとどまっている元凶だ、と追及しました。

厚労省は、「地方では、遅くまで開けるほどニーズがないところもある」と回答しました。私たちは、「低いところに合わせて基準になっている。3時間では、運営指針の内容をやるはずがない」と、要綱や

全国学童保育研究会

「保育を通じて
 子どもの権利をどう保障するか」

2月23日(日)～24(月・祝)
 群馬県 安中温泉「ホテル磯部ガーデン」

植木信一先生(新潟県立大)をお招きし、実践論議を深めていきます。

- 分科会A 一人ひとりが大切にされる保育
- B 学童保育の施設
 - C 準備時間の確立
 - D 保護者との関係づくり

各組織で、たくさんの参加者を送り出そう。

申し込み：第1次 1月15日(水)
 最終 1月31日(金)
 部会事務局まで



公費を一切受けられない実態を語る川崎支部・田中さん(右)。

11月7日、中央行動において、全国学童保育部会の仲間は国会議員要請で、基準、予算の引き上げを求めていきました。

はじめて議員要請に参加した愛知支部・寺田聡子さんは「このような経験は今までなかったもので、とても勉強になりました。あまり話しを聞いてもらう事ができない時もありませんが、今の学童保育の現状を伝え、訴えかける事はできたように感じます。」と、感想を語っていました。声を上げなければ、要求はかきません。引き続き、がんばっていきましょう。

全国の仲間、議員要請へ

基準の改定を求めました。指導員の仕事、政府も自治体も理解していない。保育そのものが脅かされています。交渉を通じて、厚労省もまだ仕事への理解が不足している、と感じました。こうした情勢だからこそ、あらためて、学童保育指導員の役割、専門性を明らかにしていくことが大切です。(事務局長 田村一志)